別紙１

令和３年度　地域ケア個別会議における地域課題について

＜地域課題の検討事例と対応（抜粋）＞

地域課題	事　　例	具体策の提案・課題	事　　後
環境整備	70 代後半の要支援２の男性。訪問リハビリを週２回利用中。若いころから運動に取り組んでいたが、事故に遭った。下肢の手術後から趣味活動に参加しなくなった。筋緊張や動作の緩慢さがみられ、転倒を繰り返している。	身体状況の改善は難しいため、見守りがある中で、現在の能力を最大限に発揮し、ＱＯＬを高める方法を検討した。 ・介護保険サービスの内容を見直し、対人交流の機会を増やす。 ・転倒予防のための環境を整える。 ・転倒や危険を回避するために本人と一緒に行動してもらうよう妻に提案する。	・訪問系サービスに加えて、通所系のサービスを追加。その後、訪問系のサービスは終了した。 ・転倒予防のために、環境を整える過程で、近隣の歩道橋の手すりの設置や、歩行者用の青信号の時間延長について関係機関に働きかけを行い、改善された。本人のみでなく、地域住民全体にとっての安全な環境整備につながった。
独　居 災　害	80 代後半で要支援２の単身女性。胸椎、頚椎、腰椎の圧迫骨折と脳梗塞の既往がある。訪問介護と通所リハビリ等を利用。リハビリの活用により痛みも軽減し、屋内は独歩、屋外は杖歩行。 自宅は高潮浸水想定区域に指定されている。避難所は高台にあり、市民センターは自宅から離れている。地域での防災訓練はない。	・通所リハビリテーションの事業所より、日常生活動作は自立、日中はバストバンドを着用しており、通所リハビリテーションを卒業しても良い状況にある（本人も卒業したいとの意向）とのことから、卒業後は無理のない範囲で活動の継続をする。 ・避難所までは距離もあり、垂直避難として２階への避難も考えられる。 ・避難時の対策について家族へ情報提供する。個別避難計画の作成希望があれば、区役所の総務企画課に調査票を提出することも出来る。 ・コロナの感染状況が落ち着いた後、地域に避難訓練等の実施を依頼する。	・通所リハビリテーションの利用を終了する前に、負担の少ない日常生活動作、自主訓練方法を習得したが、次第に意欲が薄れている。しかし、体調に留意しながら、ヘルパーと共に掃除を行う中で、出来ることが増えている。 ・家族と相談の上、災害時の個別避難計画の作成を希望したため、避難行動要支援者として登録された。 ・非常持ち出し品や備品リスト等の情報提供を行い、災害準備ノートの作成を助言したところ、本人の災害に対する意識が高まり、災害準備ノートの作成につながった。
外　出	60 代後半で要支援２の男性。腰椎の疾患により腰痛がある。長時間の座位、立位保持は出来ない。 肝炎の既往があるが、アルコール摂取を続けている。食事は外食やつまみになるものを購入。気が短く、嫌なことがあるとアルコール量が増える。主治医からは飲酒は１～2 合までと言われている。 外出は自転車。人づきあいが苦手で、周囲からの働きかけを好まない。	・お酒を分けて購入することで自転車に乗る回数を増やし、運動量を増やす。 ・セルフモニタリング（飲酒日記）で飲酒サイクルを振り返り、自身の適量を確認する。 ・検査データは改善してきているため、検査結果のフィードバックを通じて、関係づくりを進める。 ・タンパク質の摂取を増やすため、訪問給食の利用や豆腐・納豆、冷凍ご飯などを活用する。 ・地域の見守りを継続する。	・肝機能データを確認し、今後の飲酒について一緒に話をすることが出来た。 ・カラオケなど、外に目を向けるようになった。 ・自転車の移動も運動であるととらえることができ、自転車で自宅から遠めの公園まで出かけ、公園内のウォーキングを始めた。

令和３年度　包括ケア会議における地域課題について

項目	地域課題	包括ケア会議での意見
通いの場	・ニーズはあるが、サロンがない地域がある。 ・男性が積極的に参加できる地域活動の場が少ない。 ・市民センター活動を紹介したいが、市民センター前の横断歩道が長いため、本人の歩くスピードでは間に合わない。	・男性は地域の活動に参加しづらい。市民センターに男性も参加しやすい講座を検討してもらっている。 ・職歴を活かした地域での活躍の場づくりをすることで、本人の意欲を生む。 ・コロナ禍でサロン活動の制限や、回覧版を廃止するなど、地域のつながりが希薄化しており、課題は多い。 ・本人の生きがいと地域の活動をリンクさせると良い。
住まい	・娘と同居のため、本来は地域の見守り対象ではなかったが、日中単身で不安が強い方だったので、見守り対象となった。 ・息子の借金で介護サービスの利用に制限がある。本人に今後のイメージ（人生会議）を持ってもらい意向を確認する。人生会議の普及。いわゆる８０５０問題。	・認知症の医療評価に基づいた支援計画が必要。家族の意向のみで在宅生活を選択するのは妥当とは言い難い。
認知症	・認知症による問題行動で近隣住民に迷惑が掛かっていた事例について、地域ケア個別会議後に自治会主催で認知症の勉強会を開催する予定となった。（コロナで延期）	・認知症高齢者について、地域住民に認知症であるという情報を知らせて良いのか、伝え方が難しい。
	・軽度認知症の独居女性。知人やタクシー会社、総菜店やコンビニエンスストアと医療機関、介護関係者が連携し、見守りをしている。遠方の家族による電話によるサポート等で在宅を継続している。今後、施設入所については、本人と家族の意向を確認する。	・認知症の独居高齢者の課題の成功事例である。地域で孤立化しなかったのは、本人のコミュニケーション能力によるところもある。 ・町内会、校地区社協、民児協と連携をとりながら、見守りを続ける。
外　出 買い物	・バスの乗降時などに手助けが必要な高齢者がいる。乗降時に手助けが可能な住民を増やす。（啓発） ・近くにスーパーがなく、買い物が不便。	・一人で外出が困難な高齢者の外出方法について検討する必要がある。